

社会福祉法人 内海福社会

虐待防止指針

1. 虐待防止の基本姿勢

利用者の尊厳を保持するため、いかなる時も利用者に対して虐待を行ってはならない。そのため、当法人（施設等）の基本的な考えとして、この指針を定め、職員が高齢者等の虐待について理解し、虐待を未然に防ぐ方策を共有する。

2. 虐待の定義

(1) 身体的虐待

利用者の身体に外傷が生じ、または生じるおそれのある暴力を加えること、また正当な理由もなく身体を拘束すること。

(2) 介護放棄

意図的、結果的であるかを問わず、行うべきサービス提供を放棄または放任し、利用者の生活環境や、身体・精神状態を悪化させること。

(3) 心理的虐待

利用者に対する著しい暴言、または著しく拒絶的な対応、その他の利用者に心理的外傷を与える言動を行うこと。

(4) 性的虐待

利用者に猥褻な行為をすること、または利用者に猥褻な行為をさせること。

(5) 経済的虐待

契約者の同意なしに金銭を使用すること、または契約者が希望する金銭の使用を理由なく制限すること。

3. 高齢者虐待・不適切なケアの未然防止の取り組み

当法人（施設等）の職員は、虐待・不適切なケアを未然に防ぐために以下の取り組みを実施する。

(1) 事故や苦情の詳細な分析と再発防止に関する取り組み。

(2) 提供する介護サービス等の点検と、虐待に繋がりがねない不適切ケアの改善による介護などの業務における質を高めるための取り組み。

(3) 当法人（施設等）の職員が一体となって権利擁護や虐待防止の意識の醸成と、認知症ケア等に対する理解を高める研修の実施・教育等の取り組み。

(4) 指針及びチェックリストの定期的な見直しと周知。

(5) 職員のメンタルヘルスに関する組織的な取り組み。

- (6) 虐待防止委員会を設置のうえ定期的に開催し、虐待防止マニュアルの定期的な見直しを行い結果を周知する。

4. 虐待発生時の対応

(1) 虐待の発生及び通報

- ① 当法人（施設等）職員は、利用者や契約者または他の職員等より虐待の通報があった場合には、本指針並びに虐待防止マニュアルに沿って対応する。
- ② 利用者に対して虐待等が疑われる場合は、当法人の施設長や管理者へ速やかに報告のうえ、施設長については理事長及び所管課（高齢者支援課等）並びに地域包括支援センターに報告するとともに、速やかに解決に繋げるよう対応する。

(2) 虐待に対する職員の責務

- ① 業務における高齢者虐待は、外部からは把握しにくいことが特徴であることを認識し、職員は日頃から虐待の早期発見に努めなければならない。
- ② 職員は業務中に、虐待を受けたと思われる利用者を確認した場合、速やかに施設長や管理者に報告する。また施設長は虐待防止委員会を早急に開催し、速やかに理事長及び所管課（高齢者支援課等）並びに地域包括支援センターに報告しなければならない。

5. 虐待防止責任者と担当者の責務

(1) 虐待防止責任者の責務

- ① 虐待内容及び原因の解決策の責務
- ② 虐待防止のため当事者との話し合い
- ③ 虐待防止に関する一連の責任者

(2) 虐待防止担当者の責務

- ① 利用者からの虐待通報受付
- ② 職員からの虐待通報受付
- ③ 虐待内容と契約者の意向の確認と記録
- ④ 虐待内容の施設長及び管理者への報告

6. 当該指針の閲覧について

当方針は、全ての閲覧希望者に閲覧を許可し、いつでも閲覧を行えるよう指定の場所にて保管管理する。

施行日 2024（令和6）年4月1日